

# 八社宮神社と石造物に見える八社宮の歴史

## 八社宮神社由緒

創立年月日不詳。  
 須佐之男命と櫛稲田姫命を祭神とした①八坂神社と奥津比古神、奥津比咩神、火車須尾神を祭神とする②三柱神社が明治37年7月に合祀し、三柱神社と称したが、大年神を祭神とする③五々神社と合併し、元の五々神社境内に合祀して、八社宮神社と改称した(昭和10年12月28日合併許可)

## 神社本殿



## 鳥居



八社宮神社の桜です。  
 毎年八社宮区全体でのお花見が春の始まりです。

## 八社宮のむかし

明治6年の八社宮は本村26戸枝村(江向)13戸と記録されている。

たびたびの水害と飢饉と貧困と疫病が発生した。とくに慶応から明治初期の数年は物故者が多くてで混乱状態だったようです。  
 近世においては昭和9年の床上2mの天井にも届く大洪水は今も語られる。これは平成16年の水害より25cm深かった。当時の八社宮には川があり交通運搬の手段であった。低い土地であったためたびたび水害に悩まされていたようです。  
 地神さんの碑は怒りを鎮めるために建立された。



元禄2年 1689年の石碑



一石一字供養塔 明治16年7月のもの

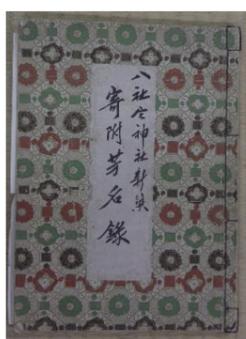


藤ヶ森地神さんの碑 明和巳寅11月23日建立と読める(1770年 明和5年・9年は大水害の記録あり。)

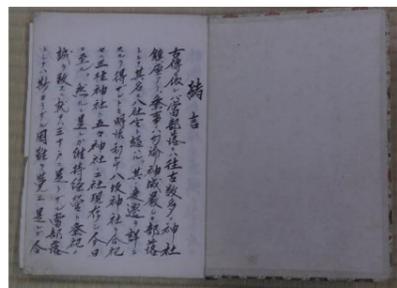
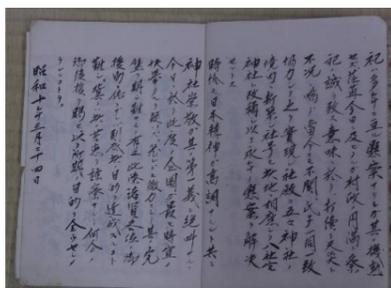
八社宮には「宮」が八社あったのではないかとされており。明治の初期、伏、八社宮、清冷寺の役員で当時、戸長、副戸長とよばれていた方々によって作られた見取り図によれば正にその通り八社ありました。

- ①字宮前に「吾々大明神」
- ②字ハサミに「若宮社」
- ③字天王に「古天王」
- ④字天王に「祇園天王」
- ⑤字堂前に「三寶荒神」
- ⑥字一本木に「稲荷大明神」
- ⑦字江向に「荒神」

そして、当時台帳に宮地として残っている、以前合併の一社が⑧江向にある。今は野沢家の地神として祭られている。



八社宮神社新築 寄付芳名録



由緒碑の元となる「緒言」の原本です。八社宮会館に保存されていました。女代神社の神主様の名前があります。昭和10年の文書なので文字もわかりにくく古文書を研究して方に解読していただき碑を造りました。

五々神社は、後々所明神社、伍五社神社という表記あり。  
 鎮座地 兵庫県豊岡市八社宮字ノ後55  
 八社宮神社  
 主祭神(伍々神社) 大年命  
 配祀神(三柱神社) 須佐之男命・櫛稲田姫命  
 八社宮村は、清冷寺村の枝郷として、(宝永二年)仙石正章知行目録、後も長く清冷寺村の枝郷とされ、(宝永二年)仙石正章知行目録、明和二年(仙石政長上知高目録「天保郷帳」では、清冷寺村に含まれている。明治二十二年に町村制が公布され八社宮となる。  
 八社宮神社は、明治初年八坂神社を合祀する村社三柱神社と村社五々神社を昭和十年に合祀し、五々神社の境内に社殿を新築し社号を当地に相応しい八社宮神社に改名した。

出石封内神社帳 抜粋 八社宮分  
 一、後々所明神社(こしよじまようじんしゃ) 三尺四方 八社宮村  
 一、三社(さんしゃ) 牛御天(うしのみかみ) 鬼沙門天(おにさもんてん)・荒神(こうじん) 小社(こしゃ) 三尺四方  
 一、山王権現(さんおうごんげん) 社(やしろ) 御座無く候(ござなくそうろう)  
 一、牛頭天皇(ごすてんのう) 小社(こしゃ) 御座無く候  
 一、藤原天皇(ふじのりんのう) 社(やしろ) 御座無く候  
 一、八荒神(はちこうじん) 社(やしろ) 御座無く候  
 一、山王荒神(さんおうこうじん) 社(やしろ) 御座無く候  
 一、姫御前(ひめごぜん) 社(やしろ) 御座無く候  
 右、勧請年数相知り申さず候。社人・別当御座無く候。村支配仕り候(かまつけりそうろう)  
 (中略)  
 宝曆(ほうれき)九年卯(う)十月 大庄屋代 上石村 弥兵衛 印  
 (1759)



他にも多くの石造物があり、そのなかには室町時代のもも残っています。